

靖國神社御創立 百五十年記念事業

佐藤 正 陸自78

靖國神社は令和元年、御創立150年の節目の年を迎えた。

御創立150年の記念事業として、数年前から「本殿・拝殿・霊璽簿奉安殿関連工事」、「靖国会館内装改修・休憩所設置工事」、「外苑整備工事」などの事業が計画・実施されてきた。

本殿では、殿内の冷暖房とバリアフリー化が施され、高齢のご遺族や大勢の崇敬者が正式参拝しやすい環境に整えられた。拝殿には耐震補強や消防設備の改修、霊璽簿奉安殿には補修工事等が施された。

靖国会館の内装改修は2年半程前に終了しているので、改修後の会館を利用された方も多いと思うが、明るく開放的な雰囲気となった。

靖国会館の正面には、参拝者休憩所が新築された。休憩所内には「デジタルサインエージ(電子看板)」が導入され、映像(英語案内併記)による境内施設や年中行事の案内が放映されている。また、お手洗い、自動販売機、喫煙所も併設されている。真新しい休憩所の周辺では、外国人を見かけることが多

くなったような気がする。

外苑整備では、多くの事業が行われた。8月号の表紙裏で紹介した「桜をモチーフとした全国の陶板制作」の他、参道北側の「慰霊の道整備」や「憩いの庭整備」、「中央広場と参道の整備」、「第一鳥居周辺整備」、「大村益次郎銅像美装」等である。

九段下駅から第一鳥居を通って靖國神社に向かうとき、以前は勾配がきつく感じたが、第一鳥居周辺整備のお陰で歩きやすくなった。そして、今年10月には、飲食もできる憩いの場、外苑休憩所が完成する予定であり、これで全ての記念事業が終了する。

靖國神社に來られた際には、是非、外苑道(慰霊の庭)を散策されることをお勧めしたい。特に、慰霊の庭に建立された全国47都道府県の「さくら陶板」は、企画と陶板自体の芸術性の両面で、大変見応えがある。

陶板は、全国各地の名陶工が、御祭神の故郷の土で、鎮魂の思いを込めて制作されたものであり、若い世代へ御祭神への崇敬の念を伝える道標となることを願っている。

靖國神社は、これから秋季例大祭、御創立百五十年記念大祭など、重要な行事が続くが、この御創立150年の機会に、是非、足を運ばれてはいかがでしょう。